

1 はじめに

北海道立近代美術館（以下「近代美術館」という。）は、昭和52年（1977年）7月にオープンして以来、本道の美術文化の創造・振興を担い、広く道民に親しまれるとともに、北海道の中核的美術館として大きな信頼と期待が寄せられています。一方、築47年となる施設は著しく老朽化が進んでおり、また、美術館を取り巻く状況が大きく変化していることから、このような現状に積極的に対応することが求められています。

2 現状と課題

- | | |
|--|--|
| <h3>1 施設の老朽化等</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物内外の著しい老朽化 ● 電気、水道、空調、EV等の設備の老朽化、劣化 | <h3>2 作品の収集・保存</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 収蔵庫等の狭あい化 ● 収蔵環境の適切な保全、保管状態の改善 ● コレクションの充実や作品修復の推進 |
| <h3>3 調査研究</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 調査研究をより深化させるための研究環境の充実 ● 自主企画展等、調査研究の成果を還元できる機会の充実 ● 研究成果や作品・作家に関する情報などの、デジタル技術を活用したアーカイブ構築と公開・発信 | <h3>4 展覧会</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 収蔵作品の活用機会の充実や移動美術館の実施方法の検討などによる鑑賞機会の充実 ● 多様なニーズへの対応や展示環境の改善 ● 作品を安定して管理できる環境の整備、展示用什器の保管場所の充実 |
| <h3>5 教育普及事業</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● ICTの活用や感性を育むプログラム、興味を喚起するイベントなど、教育普及事業の再構築 ● 講堂の映像・音響・照明設備の老朽化等 ● 来館者が自由に利用できるエリア、子どもが集い学べる場所の充実 | <h3>6 利用者との関係</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● ユニバーサル・デザインへの対応 ● ボランティアが活動する場所等の充実 ● カフェ・ショップ、展示室内外で休憩できる場所など、くつろぎの場所としての機能の充実 |
| <h3>7 館運営</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 自主企画特別展等の展覧会事業等の縮小 ● 団体受入れや、気軽に訪れるための駐車場の充実 ● 三岸好太郎美術館の求められる役割や機能等、在り方の検討 ● 目指す姿に相応しい美術館の名称の検討 | |

3 目指す姿

ビジョン 私たちが目指すもの	北海道立近代美術館は、アートの普遍的価値の継承・発展と、発信に取り組むことにより、誰もがその豊かさを楽しむことで、多様な人々が互いを受け入れ、活かし合う、創造性と活力にあふれる社会の実現を目指します。										
ミッション 私たちの使命、役割	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道の美術文化の中核として、道民に信頼され、親しまれるとともに、誰もが楽しみ、学び、やすらぎを感じ、人生の豊かさを見いだすことができる場所となります。 ○ アートを介した新たな発見や感動体験により、人々の生涯を通じて創造力と豊かな感性を育み、刺激し続けます。 ○ 様々な人々や団体と協働し、地域のアートの活性化に貢献するとともに、多様性の尊重や持続可能性が求められるこれからの社会づくりに向け、美術館としての活動を積み重ねながら、道民とともに歩んでいきます。 										
コンセプト 私たちが取り組んでいくこと	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #e0ffe0;">ハーモニー</td> <td>くつろぎの空間としての魅力を向上させるとともに、多彩な展示を通して、個性の異なる誰もがアートに親しむことができるよう、「ユニバーサル・デザイン」の考え方を、ソフト・ハードの両面に取り入れます。また、都心の緑の中にある美術館として、環境に最大限配慮した活動を行いながら、人とアートをつなぎ、文化と自然の調和のシンボルとなります。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0ffe0;">コレクション</td> <td>コレクションは美術館活動の原点であり、すべての人々に向けて開かれた文化と教育の資源です。収集方針に基づきながら、貴重な作品を系統的に収集し、展示やラーニング・プログラムなどに幅広く活用します。また、デジタル・データ化を進めながら、適切な取扱いと環境のもとで大切に守り、次世代へと引き継ぎます。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0ffe0;">リサーチ</td> <td>多岐にわたるリサーチ（調査研究）活動では、各分野における専門性を深めつつ、分野を横断し、総合することによって、アートの価値をさらに引き出し、美術館活動に幅広く活かします。また、誰もが北海道の美術について深く、多角的に学ぶことができるよう、資料のアーカイブ化などに取り組みます。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0ffe0;">コラボレーション</td> <td>アーティスト、ボランティア、学校、企業など様々な人々や団体と持続的な協働体制を構築し、多彩な展覧会を開催するほか、個人の成長・年齢や個性に応じた楽しみと学びの機会の創出を進め、地域の美術文化、美術教育を活性化します。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0ffe0;">ウィズ・キッズ</td> <td>子どもが自ら楽しみ、大人の手を引き何度も訪れたいくなる美術館となるような展示、ラーニング・プログラム、ワークショップを企画・実施し、生涯にわたるアートとの関わりの礎を築きます。</td> </tr> </table>	ハーモニー	くつろぎの空間としての魅力を向上させるとともに、多彩な展示を通して、個性の異なる誰もがアートに親しむことができるよう、「ユニバーサル・デザイン」の考え方を、ソフト・ハードの両面に取り入れます。また、都心の緑の中にある美術館として、環境に最大限配慮した活動を行いながら、人とアートをつなぎ、文化と自然の調和のシンボルとなります。	コレクション	コレクションは美術館活動の原点であり、すべての人々に向けて開かれた文化と教育の資源です。収集方針に基づきながら、貴重な作品を系統的に収集し、展示やラーニング・プログラムなどに幅広く活用します。また、デジタル・データ化を進めながら、適切な取扱いと環境のもとで大切に守り、次世代へと引き継ぎます。	リサーチ	多岐にわたるリサーチ（調査研究）活動では、各分野における専門性を深めつつ、分野を横断し、総合することによって、アートの価値をさらに引き出し、美術館活動に幅広く活かします。また、誰もが北海道の美術について深く、多角的に学ぶことができるよう、資料のアーカイブ化などに取り組みます。	コラボレーション	アーティスト、ボランティア、学校、企業など様々な人々や団体と持続的な協働体制を構築し、多彩な展覧会を開催するほか、個人の成長・年齢や個性に応じた楽しみと学びの機会の創出を進め、地域の美術文化、美術教育を活性化します。	ウィズ・キッズ	子どもが自ら楽しみ、大人の手を引き何度も訪れたいくなる美術館となるような展示、ラーニング・プログラム、ワークショップを企画・実施し、生涯にわたるアートとの関わりの礎を築きます。
ハーモニー	くつろぎの空間としての魅力を向上させるとともに、多彩な展示を通して、個性の異なる誰もがアートに親しむことができるよう、「ユニバーサル・デザイン」の考え方を、ソフト・ハードの両面に取り入れます。また、都心の緑の中にある美術館として、環境に最大限配慮した活動を行いながら、人とアートをつなぎ、文化と自然の調和のシンボルとなります。										
コレクション	コレクションは美術館活動の原点であり、すべての人々に向けて開かれた文化と教育の資源です。収集方針に基づきながら、貴重な作品を系統的に収集し、展示やラーニング・プログラムなどに幅広く活用します。また、デジタル・データ化を進めながら、適切な取扱いと環境のもとで大切に守り、次世代へと引き継ぎます。										
リサーチ	多岐にわたるリサーチ（調査研究）活動では、各分野における専門性を深めつつ、分野を横断し、総合することによって、アートの価値をさらに引き出し、美術館活動に幅広く活かします。また、誰もが北海道の美術について深く、多角的に学ぶことができるよう、資料のアーカイブ化などに取り組みます。										
コラボレーション	アーティスト、ボランティア、学校、企業など様々な人々や団体と持続的な協働体制を構築し、多彩な展覧会を開催するほか、個人の成長・年齢や個性に応じた楽しみと学びの機会の創出を進め、地域の美術文化、美術教育を活性化します。										
ウィズ・キッズ	子どもが自ら楽しみ、大人の手を引き何度も訪れたいくなる美術館となるような展示、ラーニング・プログラム、ワークショップを企画・実施し、生涯にわたるアートとの関わりの礎を築きます。										

4 リニューアルの基本的な考え方

技術的検討調査				
比較の観点		改修+増築	現地新築	移転新築
社会性	目指す姿の実現に向けた必要な機能	いずれも確保が可能		
	美術館活動	現建物の歴史的価値を継承	休館期間最長	休館期間最短
環境性	樹木伐採規模※工事箇所	約10本	約50本	約160本

道民意見聴取	
区分	主な御意見
景観	<ul style="list-style-type: none"> ・緑に囲まれた美術館であってほしい。 ・今ある自然を大切に守り、残してほしい。
建築	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが使いやすい施設に生まれ変わってほしい。 ・展示エリアや資料室をもっと広くしてほしい。 ・建物がアートとして魅力あるものになってほしい。 ・建築物としての価値を大切にしてほしい。 ・場所はそのままだに施設が生まれ変わってほしい。

整備方法の検討に係る考え方

項目	検討内容
“目指す姿”の実現	「改修+増築」は一定程度の面積拡大が可能で、“目指す姿”の実現に向けた必要な機能の確保が図られるほか、生態系への影響、解体廃棄物の量、既存ストックの活用の観点から、“ミッション”に謳われている「持続可能性」に最大限貢献できる。
美術館活動の継続性	技術的検討調査結果では、リニューアルの工事に伴う休館期間は、「移転新築」が最も短いとされているが、枯らし期間の大幅な短縮により、「改修+増築」においても休館期間の短縮が見込める。
環境への影響	技術的検討調査結果では、樹木の伐採本数は「改修+増築」が最も少なく、伐採に伴う回復措置も容易で、環境や景観に与える影響が最も少ない。
建築物に関する最近の議論及び現建物の歴史的・文化的価値	「価値のある建築物は長く使い続けることが時代の潮流」「改修によってバリューアップが可能」といった文化庁の「建築文化に関する検討会議報告書」や建設事業者からの助言のほか、現在の近代美術館の建物は、道民から親しまれるとともに、文化財への登録の可能性が指摘され、建築物として一定の評価を受けている。

現在の建物を活用し、“目指す姿”の実現に向けた必要な諸室や十分な規模を確保するため、諸室の転用や増築等のリノベーションを行い、歴史的価値を有する建築物としても次の世代に適切に引き継ぎ、本道文化の創造・振興の役割を果たしながら、歴史を受け継ぎ、新しい時代とともに本道の美術文化を拓く美術館として生まれ変わります。

- ・近代美術館の歴史的・文化的価値の継承
- ・将来を見据えた新たな機能の整備



歴史を受け継ぎ、新しい時代とともに
本道の美術文化を拓く美術館

5 リニューアルの方向性

ハーモニー

1 適切な展示・保存環境の確保や狭あい化の解消



- ・外壁等の補修、電気・空調・EV等の更新
- ・点検・メンテナンスや更新の容易化、環境負荷軽減、災害等に対応した展示・保存環境の整備
- ・収蔵庫の増築や諸室転用等による適切な保存環境の確保

2 様々なニーズへの対応や時代の変化を見据えた展示機能の進化



- ・幅広い人々が気軽に、深く鑑賞出来る展示室へ刷新
- ・アートの潮流や展示技術の変化を視野に入れた展示室拡大・機能進化

3 多くの人が訪れる、居心地がよく、アクセスしやすい空間



- ・カフェ、ミュージアムショップの充実
- ・インバウンド対応、文化観光推進事業者等との連携
- ・施設設備のバリアフリー化、案内表示等のユニバーサル・デザイン化
- ・障がいのある方や修学旅行等の団体も利用しやすい駐車スペースの確保

4 都心の貴重な緑との調和と環境への配慮



- ・ネイチャーポテンティブに基づく環境への配慮
- ・環境学習スペースや前庭の整備
- ・内装などへの地域材の活用

5 時代の進展にあわせたデジタル技術の活用



- ・デジタルを活用した鑑賞
- ・リアルアーカイブとデジタルアーカイブの融合

6 スタッフの専門性の向上や育成



- ・アーティストやボランティア、学校、企業等との協働を通じた人材の育成
- ・博物館実習の実施による後進育成の充実

コレクション

- ・体系的な収集と適切な保存、計画的な修復
- ・コレクションデータベースの更なる充実
- ・作品・什器等の保管場所や荷解室等バックヤードの整備



リサーチ

- ・学芸員の調査研究を充実するための環境を整備
- ・インターネット等や出版による調査研究成果の社会還元を強化・充実
- ・道内美術館等の情報にアクセスできる特設ページの構築・運用



コラボレーション

- ・音楽や舞踊、スイーツ、医療など多様なジャンルの個人・団体との協働による展示等の企画・実施
- ・講堂や映像室等を多様なジャンルの活動や情報・デジタル技術の発展に対応できるよう多機能化



ウィズ・キッズ

- ・新たな時代を担う子どもたちの感性や創造力を育む発達段階に応じたラーニング・プログラムの開発等
- ・子どもの視点に立って工夫した展示等のスペースや親子で楽しめるスペースの設置



6 今後の進め方

基本計画の策定	○ “目指す姿”を実現するために必要な美術館の機能や役割を更に具体化し、リニューアルに必要な施設整備や運営方法に関する基本計画を策定
運営方法の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ○ PPP/PFI手法導入の適否に係る詳細な検討を実施 ○ 施設の維持管理や美術館事業の充実に向け、ファンドレイジングや企業等との協働による事業手法などを検討
休館期間中の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 休館期間中は、移動美術館の開催、他の美術館との連携、教育普及活動等の実施を検討 ○ リニューアルに係る機運の醸成に向けた様々な取組を検討

知事公館・近代美術館エリア活用構想（素案）【概要版】

令和6年(2024年)11月

総務部イノベーション推進局財産課

第1 はじめに

知事公館・近代美術館エリア（以下「エリア」という。）は、古くから人々の暮らしが営まれていた場所であり、道が所有した昭和28年(1953年)以降、重要な会議や行事の舞台として活用されるとともに、本道の芸術文化が育まれてきた場所であり、多種多様な樹木が彩る美しい景観が、訪れる方々の目を楽しませる憩いの空間となっています。

道では、エリアにおいて積み重ねられてきた歴史の重みや文化の振興に果たしてきた役割などに鑑み、道民の皆様の貴重な財産であるこのエリアを大切に守り、次の世代へと確実に引き継いでいくことが何より重要と考え、老朽化した施設の対応を含めた活用方策について、北海道議会でのご議論や、道民の皆様、有識者の方々などから幅広くご意見をいただきながら検討を重ねてきました。

このたび、これまでいただいたご意見などを踏まえ、この先の未来を見据えながら、エリア全体の一体的な活用を進めることとし、道民の皆様により親しまれ、誇りに感じていただける魅力あふれる場所とするための構想（素案）を取りまとめました。

今後、この構想（素案）はパブリックコメントを募集した上で最終的に成案とし、皆様のご理解とご協力をいただきながら、実現に向けて、様々な取組を進めてまいります。

第2 現状・課題

区 分	内 容
エ リ ア 全 体	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多種多様な樹木が自生しており、札幌市のまちづくりにおいても重要なエリア。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積み重ねられてきた歴史の重みを踏まえ、道民の皆様の貴重な財産として、歴史的・文化的価値を大切に守り続け、確実に次の世代へと継承していくことが必要。 ・ みどり溢れる憩いの空間となっている現在の環境や景観を守りながら、より多くの方が訪れ、親しまれる場所としていくことが必要。 ・ 赤れんが庁舎から知事公館・近代美術館に至る一帯は、歴史的建造物と景観が醸し出す歴史的な雰囲気を感じることができる場所であり、他の施設等と調和を図りながら、環境の維持等に取り組むことが必要。
知事公館	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財保護法に基づく有形文化財に登録。 ・ 築年数の経過とともに、建物・設備の老朽化が進行。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登録有形文化財としての価値を守り、適切に保全し続けることが必要。 ・ 行政庁舎として効果的に活用するため、会議室や応接室等の機能の充実。 ・ 道民の財産として有効活用するため、更なる利活用の促進。
緑 地	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境緑地保護地区に指定されており、訪れる方々の憩いの空間。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大切に守られてきた豊かな自然環境を適切に保全し続けることが必要。 ・ 訪れた方々の安全性の確保や、より利用しやすい環境の整備。 ・ エリア内の回遊性の向上など、一体的活用による更なる利用促進。
居住区域	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8棟9戸の公邸・宿舎は、いずれも老朽化に加え、湿気による影響で劣化が著しい。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全性や景観上の観点から、老朽化が進んだ建物の解体。 ・ 跡地は、緑地との一体性・連続性に配慮しつつ、有効活用に向けて検討。 ・ 公邸は、新たに建設する場合と民間住宅を借り上げる場合の課題を比較しながら、必要な機能を確保しつつ、社会経済情勢の変化も念頭に検討。

第3 エリア全体の目指す姿

- 芸術や本道の歴史・文化を身近に体感できる空間
- みどり豊かな自然環境が保たれている空間
- 誰もが心地よく過ごすことができる交流と憩いの空間

第4 各施設ごとの取組

- エリアの価値を高め、目指す姿を実現するため、各施設の連携を図りながら各般の取組を進めます。
- より多くの方々にエリアの魅力を知ってもらうため、道のホームページの情報充実、SNSによる積極的な情報発信、市内歴史的建造物との周遊促進などに取り組みます。

区 分	将来像	取組の方向性
知事公館	<p>貴重な歴史的・文化的資源として現在の姿が維持され、道の会議や行事、来賓のおもてなしの場として活用されるなど、その歴史を積み重ねています。</p> <p>本道の歴史に触れられる場所として、国内外から多くの方々が訪れ、親しまれています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登録有形文化財として適切に保存するための大規模改修の実施。 ○ 応接や意見交換の場としてより一層活用するための応接機能の拡充。 ○ 緊急時における本庁舎のバックアップ機能としての会議機能の充実。 ○ 訪れる方々に本道の歴史に係る理解を深めていただくための展示の充実。 ○ 土日・祝日など開館日の拡大。 ○ 会議や行事の開催に支障が生じない範囲で、一般の方々への貸出しについての検討。 ○ 公館附属建物（旧公邸）の解体。
緑 地	<p>みどり豊かな環境や、美しい景観を楽しむことができる憩いの空間として、子どもから大人まで多くの方々が訪れ、人々のつながりや交流が生まれています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ みどり豊かな環境を保つための適切な庭園管理。 ○ エリア内の回遊性・利便性を高めるための散策路の整備、利用しやすい位置への出入口の配置、利用規制の見直し。 ○ 開放期間及び時間の拡大。
居住区域	<p>緑地と一体となった豊かな自然環境の中、多くの方々の交流と憩いの場として親しまれています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化した現建物の解体。 ○ 解体後の緑地化、一般の方々への開放。 ○ 景観等に配慮しながら、エリア全体の価値の向上に資する取組についての検討。 ○ 公邸は、道政を取り巻く環境の変化を踏まえ、当面は民間借上を継続。社会情勢の変化も念頭に、将来的な知事公邸の建設の必要性についても引き続き検討。

※近代美術館は、施設の老朽化や美術館を取り巻く状況の変化に対応するため、現在の建物を活かしながらリニューアルを行います。具体的な整備内容などについては、別途とりまとめる「北海道立近代美術館リニューアル基本構想（素案）」に沿って検討を進めます。

第5 取組の推進

- 取組の推進にあたっては、庁内関係部署はもとより札幌市などとも連携しながら、具体化に向けた検討を進め、順次実施していきます。
- 知事公館や緑地の整備・改修にあたっては、文化財の保存・修理に係る専門家や民間企業の意見を伺いながら、国の支援制度や民間のノウハウを最大限活用し、計画的・効率的に進めていきます。